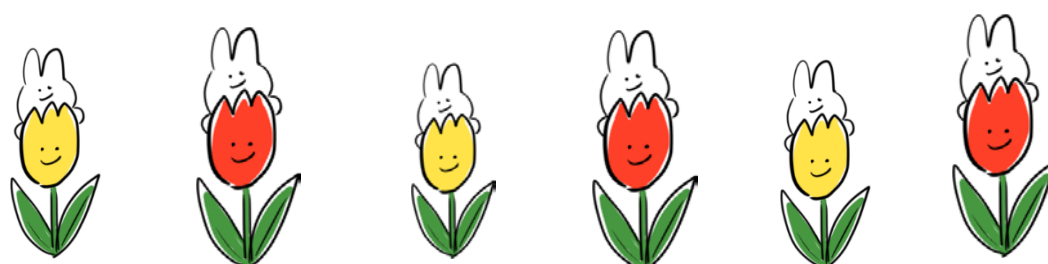


出店のご案内

☆一覧表☆

8月18日 (土)	16:15	ホームグループ (6階 多目的ホール)				
	17:00 ~ 19:00	カラース (302)	夢がグル ープをひ とつにす る~夢 PCAGIP~ (303)	三角形か ら始める TAE (さん かく TAE) (306)	子どもと フォーカ シング (307・308)	観我フォ ーカシン グ (多目的ホー ル)
	19:30	懇親会 (新潟東映ホテル)				
	9:30	ホームグループ (6階 多目的ホール)				
8月19日 (日)	10:15 ~ 12:15	内観フォ ーカシン グ (303)	フォーカ シングを どうスム ーズに伝 えるか (306)	3. 1 1 と フォ ーカシン グ (8) (403・404)	TRE とフォ ーカシン グ (405・406)	TAE を応用 して論理的 な文章を書 く~大学教 育での実践 例~ (409)
	13:30 ~ 15:30	インタラ クティ ブ・フォ ーカシン グの体験 (302)	フォーカ シングを 使って書 くことで 社会を改 良する (306)	悟りを深め るためのセ ルフ・フォ ーカシン グ・グル ープ (307・308)	フォーカシ ングの哲学 と臨床実践 の基礎とし てのフォー カシング (403・404)	宝物フォ ーカシン グ (410)
	15:45	閉会式 (6階 多目的ホール)				



☆出店の内容☆

※誌面の都合で敬称を略しています。



8月18日（土）セッション1 17:00～19:00

	タイトル	出店者	会場
1	カラーズ	星加博之	302
	5～6人グループで行います。卓上に並べた色紙の中から「好きな色」「苦手な色」「気になる色」を選び、それぞれの色について話します。グループの方から質問や感想を聞いているうちに実感を伴った新しい自分を発見できることがあります。		
2	夢がグループをひとつにする～夢 PCAGIP～	筒井優介	303
	夢 PCAGIP（ゆめピカジップ）とは、小グループで実施するグループワークで、夢提供者が自分の夢（寝ている時に見る夢）の意味を見出すことを援助するワークです。夢提供者がグループメンバーの質問や感想、問いかけなどから夢を理解し、夢の持つ新たな側面に気づくことがワークの目的です。夢の世界をメンバーとともに旅することで、メンバーと不思議なつながりが生まれます。夢を見ないという方でも、グループ体験を味わっていただけます。		
3	三角形から始める TAE（さんかく TAE）	得丸智子	306
	TAE（Thinking At the Edge）は、ジェンドリンがフォーカシングの応用の一つとして考案したものです。言葉（ことば）と体（からだ）を、丁寧に応答させていくところに特徴があります。「TAEは14ステップもあるので長くて大変」と思っておられる方もいるかもしれませんが、部分的に使うだけでも、ものの見方や感じ方が、大きくかわってきます。今回はステップ10を、アレンジしました。3つの語を三角形をイメージして置き、フェルトセンスと応答させるワークをおこないます。たった3つの言葉でも豊かな世界を広げてくれることに気づくことでしょう。フェルトセンスと言葉はとても仲良しなのです。覚えて帰って日々楽しめるワークです。気軽にご参加ください。		
4	子どもとフォーカシング	笹田晃子 古澤泰江 勅使河原真弓	307・308 （続き間）
	いくつかの楽しいワークを体験していただきながら子どもとフォーカシングで大切なことをお伝えするとともに、みなさんが日頃困っていることなどを話し合える時間も作りたと思っています。初心者の方、歓迎します。		
5	観我フォーカシング	池見陽	6階 多目的ホール
	本来はユージン・ジェンドリンに忠実なフォーカシングを実践していますが、最近はマインドフルネス、慈悲や自身の瞑想体験をフォーカシングに取り入れてみることにしました。そこで、「ジェンドリンのフォーカシング」とは別に「池見のフォーカシング」として、今回は「観我フォーカシング」をご紹介します。国内のほか、シドニー、ウィーンなどでもワークショップで行い、好評をいただいております。概略、デモンストレーション・セッション、（可能なら）ペア・ワーク、そして皆様との観我をめぐる話し合いを楽しみにしております。		

8月19日（日）セッション2 10:15~12:15

	タイトル	出店者	会場
1	内観フォーカシング	仁田公子	303
	日本で自己修練法として始まり、心理療法としても応用されている「内観」とフォーカシングを合わせて行い、両方を交差させて出てくる「何か」を一緒に味わいたいと思います。		
2	フォーカシングをどうスムーズに伝えるか	森川友子 窪田直樹	306 視聴覚室
	フォーカシングに意欲がない人に対して教える場で、無難にも深くもでき、ある程度楽しいワークとしてどれを選ぶのが良いのか模索してきました。前半はそうしたワークを行います。後半はフォーカシングフェルトセンスで感じ表現し合いませんか。フォーカシングという呼称は集中的作業や写真をイメージさせる機械的な言葉であり、私たちが体で感じた言葉や色、音で補わなければ世間に伝わらないかもしれません。		
3	3. 11とフォーカシング（8）	大迫久美恵 小池順子 笹田晃子	403・404 (続き間)
	2011年の東日本大震災の年から始めた「3. 11とフォーカシング」も8回目を迎えました。一昨年は福島県いわき市、昨年は神戸と糸を繋いでできました。今年は、さらに新潟へと繋いでいきます。「3. 11」を間に置きながら、「3. 11」だけに留まらない、静かでシンプルなフォーカシングの時間にしたいと思っています。自分にとって静かな時間や場所を持ちたい方、初めての方ももちろん大歓迎です。いろいろな想いを自由に語り合いましょう。		
4	TRE とフォーカシング	阿部利恵	和室406 ・407(続き間)
	TRE（トラウマ・テンション リリース エクササイズ）は、7つのエクササイズで筋肉に軽い負担をかけ、身体の自然な振動を誘発し、身体や心にたまった緊張やストレスを開放します。このセッションでは、TRE を行った後に、ご自分の TRE 体験、身体の感じをフォーカシング的に振り返り、みなさんとともに、身体と心のつながりを感じたいと思います。		
5	TAE を応用して論理的な文章を書く ～大学教育での実践例～	得丸智子	409
	TAE（Thinking At the Edge）は、ユージン・ジェンドリンが開発した思考法で、身体的に感じられる意味感覚（フェルトセンス）を、明確な言葉に展開する方法です。発表者は、意味感覚の一種であるパターン感覚を活用して段落と段落を論理的に結びつける文章表現法を考案し、実践しています。発表では、『TAEによる文章表現ワークブック』に収録されているワークシートを用い、大学生を対象としておこなった実践例を報告します。		

8月19日（日）セッション3 13:30~15:30

	タイトル	出店者	会場
1	インタラクティブ・フォーカシングの体験	前田満寿美 伊藤三枝子	302
	インタラクティブ・フォーカシングとは、話し手と聞き手の相互作用を大切にしたフォーカシングの発展型で、傾聴力を増すお勧めの方法です。体験を通じて、他者との出会いやつながりも実感していただけたと思います。多くの方のご参加をお待ちしております。		
2	フォーカシングを使って書くことで 社会を改良する	上村英生	306 視聴覚室
	フォーカシングを、書くことに応用すると、書いた人と読んだ人の両方に納得いく「わかりやすい」文章が書けて、社会の改良にもつながります。セッションでは、フェルトセンスを使った作文方法についての S. パールの研究を紹介し、ジェンドリンの理論に基づいた説明をします。参加者にフォーカシングをしながら書く方法を体験してもらいます。ペアになってインタビューする形をとりながら、話し手は多くの人に伝えたいことを実感に触れながら語り、聞き手は傾聴して、フェルトセンスに響いてきた大切なところを中心に書き記します。		
3	悟りを深めるためのセルフ・ フォーカシング・グループ	土江正司	307・308 (続き間)
	「自己」はあらゆる人間関係や状況との関係上に成り立っていますが、その一々に生じるフェルトセンスに向き合うことで「自己」は軽くなります。そのためには多くのフォーカシングが必要ですが、セルフ・フォーカシングができるならば毎日でも可能です。またカウンセラーにとっても、クライアントとの関係についてセルフ・フォーカシングすることは欠かせないことだと思います。出店では、マインドフルネス瞑想→セルフ・フォーカシング→「ぴったり言葉」の書き出し→グループシェアリングと進んでいきます。		
4	宝物フォーカシング	小池順子 今井雅巳	410
	今、側にある「お気に入りの物」を、隠してお持ち下さい。皆さんに紹介してもよい物をお選び下さい。（手元にない方、忘れた方は、描いてもOK。）そこにある大事な感じ、エピソードなどを、フォーカシングしあいます。秘められたパワーに出会えるかも？		
5	フォーカシングの哲学と 臨床実践の基礎としてのフォーカシング	村里忠之	403・404 (続き間)
	フォーカシングの哲学はジェンドリンの哲学である。これは哲学一般の歴史においてどのような位置を占めうるか？ジェンドリンは自分の哲学が現象学との交差、ハイデガー哲学との交差において展開したと書いているし、またそれを根源的経験論とも呼ぶ。セッションの前半はこのことを分かり易く説明したい。他方フォーカシングはジェンドリンの臨床体験から抽出された方法、身体知を活用する方法でもある。心理臨床において僕は近年マインドフルネスを活用するのだが、両者はとても相性が良い。セッションの後半はこれを扱いたい。哲学と臨床をつなぐのは身体知である。フロアの人たちとこれを語り合えればと思います。		